

第四十五回帝國議會 衆議院

身元保證ニ關スル法律案外三件

身元保證ニ關スル法律案  
裁判所構成法中改正法律案  
民事訴訟法中改正法律案

委員會會議錄(速記)第二回

會議

大正十一年三月二日午前十一時開議

出席委員左ノ如シ

委員長 高見 之通君

理事 大道寺慶男君

高柳淳之助君 久木田 叶君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

青木恒太郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

身元保證ニ關スル法律案

家産法案

裁判所構成法中改正法律案

民事訴訟法中改正法律案

○高見委員長

是カラ會議ヲ開キマス、上島君ノ提出ニ係ル身元保證ニ關スル法律案、之ヲ議題ニ供シマス、既ニ質問ハ終了致シマシタカラ討論ニ移リマス

○大道寺委員

此案ハ既ニ昨年モ本院ヲ通過致シタ案デアリマス、至極結構ナ案ト思ヒマスカラ、原案通り可決サレシコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○高見委員長

只今大道寺君ノ原案賛成ト云フ動議ガ出マシタガ、宜シウゴザイマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○高見委員長

ソレデハ本案ハ是デ可決確定致シマシタ、次ニ家産法案——是ハ質問未了デアリマス、一寸諸君ニ御諮リランマスガ、議員青木恒太郎君ガ家産法ニ非常ニ御熱心デ、此場合特別ニ發言致シタイト云フ御要求デアリマスガ、如何デスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○高見委員長

青木君

私ハ此家産ノ事ニ付テ興味ヲ持ッテ始終考ヘツ、アルノデ同志ノ人ニモ色々話ランコトガアルノデアリマスガ、幸ヒ上島君ノ御提案ニナリマシタ此法案ニ付テ、私ノ御聞き申シテ見タイ事ガ二三アリマス、ドウゾ私ニ質問ヲ許シテ戴キタイ、ソレハ私ガ此家産法ヲ制定シタイト云フノハ、日本ノ家族制度ノ美ヲ永ク保存シタイト云フ見地カラ、茲ニ家ガアレバ、ソレニ對スル所ノ家産ノ必要ナルコトハ言フ迄モナイデアリマス、是ハ即チ戶主、家督相續人ノ特權ニ屬スル事デ、華族ノ世襲ノ財産ノヤ

ウニシタイト云フ考ヲ持ッテ居ルノデスカ、上島君ノ見マス、人ニ重キヲ置イテ家ニ重キヲ置イテ無イヤウニ考ヘマス、私ハ家ニ重キヲ置イタラドウカト云フ問題ナンデス、是ガ一ツ、ソレカラ過日上島君ノ御説明ニ依レバ、此五千圓ト云フモノハ、何處カラ出タト云フコトヲ明ニ御話ガナイ、是ハ農村ノ爲ニスルコト云フコト、北海道邊デハ一戸ノ農家ニ五町歩宛許可シテ居ルノデアリマシテ、先ヅ一戸ノ農家ガ耕作シ得ル段別ハ五町歩ト耕作地ト云フモノガ、ドシナ狀況ニナッテ居ルカト云フコトヲ見マスニ國勢院カラシテ戴イタ統計年鑑ニ依ルト、田ガ一人ニ付テ五畝、畑ガ四畝ナニガシ、ソレヲ五戸分トスルト、田ハ二段五畝、畑ハ二段歩餘ニシカナッテ居リマセヌ、併シ其職業別ノ方カラ考ヘマス、此五段百姓ト稱スルノガ、マア百姓ノ重ナモノ、様ニナッテ居リマスガ、統計ノ上カラ云フト、ソレガ少イ方デ五段歩以上一町歩以下ノ者ガ大多數デス、ソレカラ一町歩以上ガ又五段歩以下ノ農民ト同様ニナッテ居ル、サウスルト私ノ考カラ行クト、此五段歩カラ一町歩ノ間ノ即チ七段五畝アタリガ一番多イト思フ、ソレデ此農家ノ總數カラ此段別ヲ割ルト、矢張田ガ約五段歩、畑ガ四段歩ト云フモノガ出マス、約一町歩位ノモノガ出ル、ソコデ之ヲ金額ニシナイデ、町歩デ制限ラシテハ如何デアリマセウカ、其邊ノ御考ヲ承リタイ、ソレカラ又盛衰ニ依ッテ家族ガ非常ニ悲慘ヲ嘗メルト云フコトハ、上島君ノ御説明ニナッテ同

一ニナッテ居リマス、其慘狀ハ農村ヨリモ寧ロ市街地ニ多イノデ、私ハ此法案ヲ立テル以上ハ、矢張市街地ニ住居スル人ニハ相當ノ有價證券トカ若クハ遞信省邊リノ貯金法ヲ一ツ改正ラシテ、或ル程度迄ノ貯金ヲ預ルト云フヤウナ事ニシタラ如何デアリマスカ、又不動産貯金ト云フモノモアルケレドモ、私立ノ會社デハ面白クナイノデ、國家ガ或ル年間迄ノ長期ノ貯金ヲ許スト云フト、ソナニ財產ガナクテモ、子孫ノ爲ニ相當ナル家産ヲ設定スルコトガ出來ル、此法ヲ一ツ設ケテ、日本國民ヲシテ家ト云フモノガアレバ、相當ノ家産ト云フモノガ皆アルヤウナ仕組ニシタイ、私ハ斯ウ云フ考ヲ持ッテ居リマス、此邊ノ御研究ハ如何デゴザイマスカ承リタイ、隨テ私ノハ世襲ニシテハドウカ、ドウモ設定シタ人ガ歿後五箇年デ、之ヲ解除シテシマフト云フコトハ、折角立テ法ノ意義ヲ成サヌト思フノデス、此邊ノ御研究ヲ承ッテ見タイト思ヒマス

○上島委員 大變御熱心ニ御研究下サイマシタ好意ハ感謝致ス次第デアリマス、大體ニ於テ前回ニ申上ゲマシタヤウニ、私ニ於テハ十二分ノ研究ヲ遂ゲテ、確定動カスベカラザル定見ヲ形造ッテ、爰ニ本案ヲ提出シタ申シタイデアリマスケレドモ、實ハ其所マデ私ハ十二分ノ深い研究ハ盡シテ居リマセヌ、故ニ青木君ニ御満足ヲ與ヘルダケノ説明ノ出來ヌト云フコトハ、甚ダ慚愧ノ至リデアリマスケレドモ、私ノ趣旨トシテハ、先ヅ法案トシテ諸君ノ十分ニ御審議ヲ經テ、之ヲ完全ナモノニシタイト云フ點カラ提出シタヤウナ次第デアリマシテ、其點ハドウカ惡シカラズ御了承ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレデ五千圓ノ價額ヲドウ云フ風ニシテ之ヲ算出シタカト云フ御尋ニ對シテハ、前回ニ申上ゲマシタヤウニ、私ハ農村ニ於ケル生活ノ經驗ハ、少シモ會テ有シナイノデスカラ、農村ノ事情ハ能ク分リマセヌ、唯書物ノ上デ見タダケノ話デアリマシテ、私ガ此五千圓ト云フコトヲ茲ニ揭ゲマシタノハ、今青木君ノ申サレタヤウニ、日本デ自作百姓ヲ所謂五段百姓ト稱シテ、一家五段ノ土地ヲ耕作スル百姓ヲ、自作ノ最小限度トスルト云フ舊習ニナッテ居ルト云フコトヲ、私モ書物デ見テ居リマス、ソレカラ幕府ノ制度ニ依レバ、一町以上ノ田畑ハ戶主ニ於テ分割シテ、外ニ贈與スルコトヲ許シマシタケレドモ、一町以下ノ田畑ハ死亡セシ後ノ遺言デ以テシテモ、之ヲ分割スルコトハ許サナカッタト云フ制度ニナッテ居リマス此二ツノモノヲ綜合シマシルト、古來カラ日本ノ農村ニ於テハ五段乃至一町ノ田畑ト云フモノガ、一家ノ生存ニ必要ノ最下限ニナッテ居ルト私ハ考ヘテ居リマス、此五段乃至一町ノ田畑ト、サウシテ其家族ノ住ム所ノ一戸住宅ハ、農村ニ於テ私ハ初メニ先ヅ一萬圓ト見積レバ宜シカラウト思フ、一萬圓ト書イタノデアリマスガ、私ノ屬スル庚申俱樂部ノ人デ、農村生活ニ經驗ノアル人ノ言フノニハ、一萬圓ハ少シ高過ギル、ソレダケノモノデア

ルナラ五千圓位デ結構デアラウト云フノデ、私ハ五千圓ニ直シタノデアリマス、サウ云フ次第デアリマシテ、私ニ於テ此五千圓ト云フコトニ付テハ、其以上ノ深い見解ハナイノデスカラ、青木君ノヤウニ、サウ云フ點ノ知識ノ極メテ深い方、サウシテ御熱心ニ調査ニナッタ方ノ御意見ノ金額——實際生活ニ合致スル所ノ適當ナル金額ニ修正スルト云フコトハ、欣然トシテ之ニ應ズル次第デアリマス、ソレカラ代金ヨリモ面積ニ應ジテ、一町ナラ一町、五段ナラ五段ト云フ制限ニシテハ、ドウカト云フコトデアリマスケレドモ、サウスル

ト例ハ住宅ノ如キ、或ハ實物ニ依テ制限スルト云フコトハ、非常ニ困難ニナリテ參リマス、或ハ二階建デアラナラバドウニ階建デアラナラバドウ云フ風ニ、非常ニムツカシイ條件ヲ加ヘテ、非常ニ煩雜ニシナケレバナラナイ、デアラカラシテハ寧ろ價格ニ見積ツテヤル方ガ設定ノ場合ノ手續ガ非常ニ簡潔ニ、設定スル人ガ手數モ要ラズ、費用モ要ラズニ出來ルグラウト思ヒマス、參考ニシテ外國ノ例モ、矢張價額ニ依テ之ヲ定メルト云フ事ニナリテ居リマス、ソレカラ尙ホ之ヲ都市ニ適用シテ、都市ノ人民ニモ矢張家産ノ安定ヲ得セシメテハドウカト云フコトニ付テモ、不動産ニセズシテ有價證券ニシテラドウカ、是ハ御尤ノ御話デアリマシテ、私モ左様ナ希望方アルノデアリマス、實ハ私ノ考デア、都市ニモ均シク其恩惠ニ浴セシメル爲ニ、先ヅ公債證券ニデモシテ、日本銀行ヲ登錄スルト云フ制度ニデモシテ、一定ノ恒産ヲ都市ノ住民ニモ保クセタイ、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、前會申シマシタヤウニ、今日ノ此社會問題ノヤカマシイ場合ニ於テ、勞セズシテ得ル所ノ收入ヲ法律力ヲ以テ保護スルト云フコトハ如何デアラウカト云フコトデ、實ハ私ハ遠慮シテ居ラデス、デ此本案ノ保護スル所ノ家産——自分ノ住ンデ居ル家産ハ、是ハ生活ニ必要デアリマス、サウシテ主トシテ田畑モ他人ニ貸貸シテ耕作ヲサシテ、勞セズシテ其財産ノ收入ヲ得ルト云フ者ハ、之ヲ保護シナイ、戸主若クハ其家族ガ自ら耕作シテ、自ら其額ニ汗シテ之ヲ利用シテ、國家ノ生産ノ事業ニ貢獻スル其土地ヲ、本案ニ於テハ保護スルノガ目デアリマス、外國ノ立法例モ左様ニナリテ居リ、其立法ノ通り——都市モサウ云フ風ニナリテ居ラシテ、私モソレニ倣ウテ、此様ニ家屋ダケニ特定シテ、自ら田畑ヲ耕作スル其住宅及其田畑ヲ保護スル、人ニ貸シテ貸賃ヲ取ルト云フ、利得ヲ生ズルト云フ財産ハ、此中ニ包含シナイト云フコトニ致シタノデアリマス、併シ本當ノ希望トシテハ、今青木君ノ申サレタヤウニ、都市ノ人民ノ如キ、矢張不勞利得デアラデモ、一定ノ收入ヲ擔保シ、一定ノ恒産ヲ保護シテヤルト云フコトハ、國家ノ健全ナル發達ノ上ニ非常ニ必要デアラウト思ヒマス、カラ、其點モ私ハ青木君ト全く同感デアラデ、其點ニ對スル研究ヲ共ニ致シタイト考ヘテ居リマス。

ハ、國家トシテ私ハ何等差支ナイト思フノデス、茲ニ一ノ資産家ガアテ、其財産ヲ抵當トシ若クハ質權ヲ設定スル場合ニ、ソレヲ保護シテ呉レル、ソレハ何等差支ナイ、國民ノ爲ニ保護シテヤルノハ、不合理デアナイト私ハ思フ、非常ニ貧者ガ澤山出來レバ、國家ガ此貧者ノ生命ニ關スルヤウナ場合ニナレバ、構ハスデ置ク譯ニハ行カナイ、國家モ責任ガアル故ニ私ハ無謀ニ澤山ノ資産ヲ保護スルト云フコトハイカナクテモ、或ル程度ノ資産ヲ日本國民トシテ、兎ニ角農家ナレバ此位、商家ナラ農家ニ對スル——此全國ノ勸業銀行邊リデ調査シテ、其二町歩ナラ二町歩ノ平均ノ價額ハドウ位デアラ、此位ノ財産ヲ商家モ工業家モ保護シテヤテ宜イト云フ程度ヲ定メテ、此程度マデ保護スルト云フノハ、ソレハ何モ差支ナイト私ハ信ジテ居リマス、併シ其趣意ニ於テ上島君モ御同意アラセラレルコトデ洵ニ仕合デゴザイマス、ドウカ此法案ヲ諸君モ御研究ニナリテ、完全ナルモノニシテ豫定サレンコトヲ、私ハ希望ニ堪ヘナイ次第デアリマス、一言附加ヘテ置キマス。

○高見委員長 モウ後トハ宜シウゴザイマス、ソレデハ家産法ハ今日ハ是ダケニシテ……

○上島委員 此家産ニ關スル外國ノ法令ノ其部分ダケノモノヲ抄訣シテ、政府ヨリ提出スルヤウニ願ヒテ置キタイト思ヒマス。

○高見委員長 ソレハ宜シウゴザイマス、マダ二ツ三ツ此特別委員會ニ委託サレルモノガアラシイデスカラ、今日ハ此程度ニシテ、次ハ大道寺君ノ提案ニ係ル裁判所構成法ヲ議題ニ供シマス。

○大道寺委員 此案ハ既ニ政府ガ同意サレテ居ルノデアリマス、此以上辯明スルコトモ無イヤウデスガ、尙ホ一二心付イタ點ヲ申サゲテ置キタイト思ヒマス、大正二年ノ改正ノ當時ハ、大正二年ニ二百圓カラ五百圓マデ上リマシタ現行法ニナリマシタ當時ノ物價ト、ソレカラ現今ノ物價トヲ對照致シマスルト、是ハ大體ノ統計デアリマス、ケレドモ先ヅ二倍七分、三倍五分ノ範圍ヲ上下シテ居ルト云フ統計ヲ示シテ居ルノデアリマス、サウ云フ風ニ物價ガ上リテ居リマスル所カラ申シマシテモ、大正二年ノ五百圓ヲ、今日其物價ノ標準ニ比例シテ上ガテ參リマスレバ、最低ガ千三百圓最高ガ二千圓近クニナルノデアリマス、サウ云フ所ヲ希望スルノガ相當デゴザイマス、ケレドモ、餘リ急激ニ擴大スルノモドウデアラウカト思ヒマシテ、千圓ノ程度ニ止メテ譯デアリマス、ソレカラ又今ノ區裁判所ノ全國ノ數ガ二百七十九アリマス、地方裁判所ガ五十一、此地方裁判所ノ五十一ト云フノハ、是カラ急激ニ殖エルコトモナイノデアリマスガ、區裁判所ハ漸次殖ヤシテ行カケレバナラヌ、現ニ大正

八年以來一箇年ニ七十程殖エル、區裁判所ノ數ガ段々殖エテ行クニ從テ裁判所ノ數モ殖エテ行ク、所デ事件ハ是ト反比例シテ、年々一割若クハ二割減テ行ク、ソレデアリマスカラ、ドウシテモ此均衡ヲ得ル上ニ於テ、相當ノ價格ニ近イ程度マデ此權限ヲ擴張シナケレバナラヌト云フコトハ、當然ノ順序ニナルノデアリマス、ソレカラ地方ノ人ガ是マデ區裁判所ヘ訴訟ヲ提起シテ居ラタモノガ、物價ノ騰貴ニ依テ地方裁判所ノ管轄ニ持ッテ行カケレバナラヌト云フコトニナリマスレバ、區裁判所ノ所在ノ附近ニ接近致シマスル住民ガ非常ニ之ガ爲ニ迷惑ヲ來ス、ソレカラソレノミナラズ地方裁判所ニ於テ起シタ事件ハ、訴訟ニ控訴スル場合ニ持ッテ行カケレバナラヌ、又區裁判所カラ起ク事件ハ地方裁判所ヘ控訴スルノデアリマス、此關係カラ見マシテモ、非常ニ控訴院ノ裁判所カラ隔テ居ル人民ハ、僅ナ事デ控訴院ヘ持ッテ行カケレバナラヌノデアリマス、ソレ等ノ關係カラ千圓ニ上セテ行クト云フコトハ、當然ノ事デアラウト思ヒマス、日本辯護士協會ガ本年ノ一月ニ單行法ヲ以テ區裁判所ノ事物ノ管轄ヲ擴大スルノ制度ヲ立テルコトト云フ決議シテ居リマス、ソレカラ大正二年ニ二百圓カラ五百圓ニ増スル法案ヲ政府カラ出サレマシタ時ニ五百圓ニ増スト云フコトハ、少イカラ寧ろ此際千圓ニ増スベキデアルト云フコトヲ其當時ノ議員デアリシ花井博士カラ千圓ニ修正スベキモノデアルト云フ修正動議ヲ出サレタノデアリマス、其當時ノ司法大臣ガ松田サンデアラデ、其當時近キ將來ニ於テハ、無論千圓ニモ千五百圓ニモシナケレバナラヌガ、先ヅ目下ノ所デハ五百圓位ガ相當デアルト云フノデ、千圓ト云フコトハ否決ニナリテ五百圓ト云フコトニナリマシタ、大正二年デサヘモ既ニ千圓ニスルト云フ議論ガアッタノデアリマス、今日ニ於テハ此儘ニシテ置クベキ管轄ガナイノデアリマス、サウ云フ譯デアリマス、カラ速ニ此委員會ニ於テモ此改正ヲセラレンコトヲ望ム次第デアリマス。

○高見委員長 別ニ他ニ質問ハアリマセヌカ——ソレデハ討論ニ移リマス。

○高柳委員 只今提案者ノ御話ニ、政府モ之ニ對シテ御意見ガ無イヤウデアリマス、此儘可決スルコトニ贊成致シマス。

○高見委員長 他ニ意見ガアリマス、カ

〔贊成ト呼ブ者アリ〕

○高見委員長 ソレデハ本案ハ可決致シマシタ、ソレカラ次ニ同ジク大道寺君ノ提案ノ民事訴訟法中改正法律案、之ヲ議題ニ供シマス——御質問ハアリマセヌカ。

○大道寺委員 「三百十五條第一項ヲ左ノ如ク改ム」ト云フ修正案ダケヲ撤回致シマス。

○高見委員長 サウシマスト、只今大道寺君ヨリ第三百十五條第二項ノ修正案ヲ御撤回ニナツテ、第二百七十七條第一項ノ修正案ダケニナリマシタ、是デ質問ハ打切リマシテ討論ニ移リマス

○久木田委員 提案者ノ意見ニ賛成ヲ致シマス

○高見委員長 本案ハ是デ可決確定シマシタ、本日ハ是ニテ散會シマスガ、マダ二ツ三ツ來ル筈デアリマスカラ、ドウカ委員會ヲ開イタ時ハ熱心ニ御出席ヲ願ヒマス  
午前十一時三十二分散會

衆議院朝鮮事業公債法中改正法律案外三件委員會議録中正誤

臺灣事業公債法中改正法律案ノ中ヲ削ル

大正十一年三月七日印刷

大正十一年三月八日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局